

すくい 議会だより

No.96
2016.1
編集 議会広報編集委員会



●今号の主な内容

10月臨時会、12月定例会のあらまし…2

町政を問う

一般質問 11議員が質問…6

町民と議会との懇談会 …18

常任委員会報告 …19

ふるさとへの便り(62) …23

●今号の表紙／まちの笑顔シリーズ

「大村スポーツ少年団」…24

10月臨時会・12月定例会のあらまし



新年あけまして おめでとうございます

雫石町議会議長 前田 隆雄

町民の皆様方には、すがすがしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、早いもので議長就任から5か月が経過いたしました。昨年を振り返りますと、議員定数を4名減らした町議会議員選挙が7月に行われ、8月の初議会の後、9月、12月の各定例会や常任委員会等の開催に加え、10月から11月にかけて町民と議会との懇談会を町内6カ所で開催し、町民との対話を通して身近で開かれた議会活動を進めてきました。

また、審議の内容をより迅速に分かりやすく町民の皆様にお伝えできるよう議場放映の取り組みも新たに始めました。これは、インターネット中継ですのでパソコンで見ることになりますが、スマートフォン等の携帯機器にも対応しておりますので、生中継はもとより好きな時間に録画映像も

視聴していただければ幸いです。

現在、本町におきましては、3年前の豪雨災害の復旧工事がほぼ完了したものの、少子高齢化社会に伴う地方創生への取り組み等、本町の将来像を大きく左右する課題が山積しています。加えて、防災や社会保障といった町民の安心安全に関わる待ったなしの課題もあり、行財政改革のさらなる推進とともに、柔軟かつ的確な行政運営が必要とされております。

町議会といたしましても、雫石町のさらなる発展と町民の皆様が安心して健やかに暮らせるまちづくりに向け、全力を挙げて取り組んでまいりますので、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして、実り多き一年となりますことを心から祈念申し上げます。

臨時会で今度は一転可決

賛成 8、反対 7、14^{ヘクタール}町有地利活用に係る補正予算



接続道路予定地から14ヘクタール町有地を望む

10月30日の臨時会で、9月定例会で否決した沼返町有地14ヘクタール活用モデルプロジェクト関連予算を盛り込んだ一般会計補正予算が再提案され可決しました。

反対討論

【加藤眞純】

否決された補正の表紙を替え、説明だけをつくろい、肝心の中身は何一つ変わってない。町は誰のために、この赤字プロジェクトを執行しなければならないのか。

職員、議員の誰が考えても、経営の見通しも青写真もない赤字プロジェクトで、「町民のニーズも構想の独創性もない、後世に付けを回すだけ」のものだ。

国策ありき、国の補助金ありき、まちづくり会社ありきで、町民の意見聴取も、議員の議決も経ない前から、さらに議会否決後も、予算も付かないのに町はプロジェクトを進行し続けていた。(①出資者を募り会社設立を決め社長は町長②移住センターに出展③既にあちこち補助金の申請)

何が「みんなが主役のまちづくり」か、町のやり方は言っていることとやっていることが真逆ではないか。コンサルタントや事業者のためより、先ず、「ここに暮らす町民のため」の行政を望む。

他に山崎留美子、大村昭東議員が反対討論をした。

補正前の額	補正額	計
95億7,608万3千円	1億3,004万1千円	97億612万4千円

▶町有地事業化推進基礎調査等	5,100万円
▶まちづくり会社設立出資金	240万円
▶日本版 CCRC 移住促進センター出展負担金	930万円
▶空き家実態調査業務委託料	400万4千円

賛成討論

【堂前義信】

国策に従い、日本版*CCRCの推進、移住、定住の促進、雇用の創出、産業と福祉の充実、町有地の有効活用など、我が町の自主性、独自性が十分発揮され、町の活性化が大いに期待される計画である。

また、先の議会及び議員全員協議会の結果を踏まえ、計画内容を柔軟に変更、対応するなど、当局の努力も十分見られた。新規事業ゆえに、計画の推進及び実施に当たっては多少不安があるものの、事業実施に当たっては当局の議会に対する情報公開及び連携を望む。

さらに町職員の一層の努力をお願いし、地域活性化の起爆剤となり、次世代へ引き継げるような本事業をぜひ実施してもらいたい。

他に石亀貢議員が賛成討論をした。

※CCRC：生涯活躍のまち構想（主に都市部の高齢者を地方へ移住促進する）

平成27年12月定例会

12月4日から15日までの11日間の会期で行われました。

本定例会では計16件の案件を全て原案通り可決・同意しました。また、人権擁護委員の推薦を決定し、3件の請願陳情を審査しました。

一般質問は11名が登壇し、町当局の考えをたずねました。

議案	件数
条例の制定・一部改正	3
補正予算	6
道路災害復旧工事の請負契約の変更	3
固定資産評価審査委員の選任の同意	2
その他	2
計	16

一般会計補正予算のあらまし

補正前の額	補正額	計
97億612万4千円	1億4,642万2千円	98億5,254万6千円

▶ふるさと納税促進事業（報償費・手数料）	3,542万2千円
▶一般管理給与費	2,760万6千円
▶保育所入所措置事業	2,840万1千円
▶農地中間管理機構集積協力金	1,030万円

問 当初予算にない海外旅行業協会訪問等旅行手配業務委託料70万円の内容は。

答 タイの観光エージェントを訪問して雫石町のPR、旅行商品の開発等を依頼する事業である。しずくいし観光協会にPR活動の日程調整、現地のご案内等を委託する。訪問者は、町長、議長、産業建設常任委員長、観光商工課、しずくいし観光協会の合計6名で2月に訪問を予定している。

問 セツ森保育所の約1,000万円の改修工事は、委託者が自己の責任で実施するのが原則であるがなぜ受託者が実施したのか。受託者の特別な事情があったときには受託者が実施できるような仕組みにはなっていると理解はしているが、それを乱用すると他の施設間で不公平となる懸念がある。公平性は保たれているか。

答 当初1,000万円ほどの見積りが受託者からあったが、危険箇所を修繕してもらう判断で30万円の当初予算とした。受託者の自己判断で1,000万円ほどの修繕工事をしたものの。管理施設の1件10万円以上の費用は委託者で実施するのが基本で、各受託者間に不公平が生じないように運営している。



指定管理されているセツ森保育所

問 平成28年2月中旬に予定の、ゆいま〜る厚沢部^{あつさ}（北海道厚沢部町）視察旅費81万1千円は、町民から見たら議案を通したお礼ではないかと映ると思うが。

答 ゆいま〜る厚沢部は(株)コミュニティネットが実施しているサービスつき高齢者住宅で、町民のための老人ホームを運営している。厚沢部町と連携して取り組んでいるということから、町が取り組むプロジェクトへの理解とまちづくり会社の事業展開への意見反映のため計画した。

問 上記の関連で、なぜ町有地活用の事業計画、資金計画を早稲田大学系列会社と(株)コミュニティネットに委託するのか。当初の説明では、まちづくり会社の仕事ではなかったのか。この2者に委託すると、町がまちづくり会社に再提案しなければならないことになり、町が一番の責任者にならざるを得ない立場になるのでは。

答 委託先は合同会社住まい・まちづくりデザインワークスと(株)コミュニティネットの2者だが、計画は町も含めたまちづくり会社の事業者で検討した内容を踏まえたものが、成果として出てくると考えている。

こうなりました 皆さんの請願・陳情

件 名	提出者の住所および氏名	審査結果
豪雨水害対策の請願	栗石町上野八幡 7-2 下川原行政区長 下川原 栄子 ほか 24 名	一部採択*1
TPP 交渉の情報公開と TPP からの撤退・調印中止を求める請願	盛岡市本宮字小林 46-1 農民運動岩手県連合会 会長 久保田 彰孝	継続審査*2
上野地内町道走下り 2 号線舗装工事の陳情	栗石町上野上野沢 60 和野育苗センター 代表 町場 洋一 栗石町上野新里 5-4 (株)重次郎 取締役会長 中屋敷 紀昭 代表取締役 中屋敷 敏晃	採択*3

- *1：貯流水の適正な排水、放流口の整備は必要であるが、竜川堤防のかさ上げについては、既にこの地区の整備が完了し、堤防の高さは南側と同じであるため、堤防かさ上げを除き採択した。
- *2：大筋合意の詳細を開示することについては賛同するものの、批准を行わないことについては、判断する材料が不足しているため、継続審査とした。
- *3：当該路線の舗装工事が必要と判断するが、町内には生活道路等早急に整備しなければならない未改良の路線もあるため、優先順位も考慮しながら進めることで採択とした。

平成27年第7回雫石町議会臨時会 議決結果等一覧 会期：10月30日(金)

議案番号	議員名	件名	堂前義信	横手寿明	山崎芳邦	岩持清美	山崎留美子	杉澤敏明	川口一男	西田征洋	谷地善和	村田厚生	石亀貢	大村昭東	上野三四二	坂下栄一	加藤眞純	採決結果
承認第1号		平成27年度雫石町一般会計補正予算（第4号）の専決処分に関し承認を求めることについて	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	承認
議案第1号		平成27年度雫石町一般会計補正予算（第5号）	○	○	○	●	●	○	●	●	○	○	○	●	○	●	●	可決

○…賛成、●…反対 欠…欠席 ※前田議長は採決には加わりません。

平成27年第8回雫石町議会12月定例会 議決結果等一覧 会期：12月4日(金)～12月15日(火)

議案等 番 号	議員名 件名	堂前義信	横手寿明	山崎芳邦	岩持清美	山崎留美子	杉澤敏明	川口一男	西田征洋	谷地善和	村田厚生	石亀 貢	大村昭東	上野三四二	坂下栄一	加藤眞純	採決結果
議 案 第 1 号	雫石町個人番号の利用等に関する条例の制定について (マイナンバー制度関連)	○	○	欠	○	●	○	●	●	○	○	○	○	○	●	○	可決
議 案 第 2 号	雫石町税条例等の一部改正について (町税の徴収猶予など)	○	○	欠	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 3 号	雫石町定住促進住宅条例の一部改正について (家賃の引き下げ)	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 4 号	平成 27 年度雫石町一般会計補正予算（第 6 号）	○	○	欠	●	○	○	●	●	○	○	○	●	○	○	●	可決
議 案 第 5 号	平成 27 年度雫石町簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 6 号	平成 27 年度雫石町介護保険事業勘定特別会計補正予算 (第 2 号)	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 7 号	平成 27 年度雫石町立雫石診療所特別会計補正予算（第 1 号）	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 8 号	平成 27 年度雫石町水道事業会計補正予算（第 2 号）	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 9 号	平成 27 年度雫石町下水道事業会計補正予算（第 3 号）	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 10 号	道路災害復旧（25 災 431 号）工事の請負契約の変更に 関し議決を求めることについて	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 11 号	道路災害復旧（25 災 513 号）工事の請負契約の変更に 関し議決を求めることについて	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 12 号	道路災害復旧（25 災 514 号）工事の請負契約の変更に 関し議決を求めることについて	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 13 号	盛岡市及び雫石町における連携中枢都市圏の形成に係る連携 協約の締結に関する協議について	○	○	欠	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
議 案 第 14 号	盛岡地区広域消防組合理約の一部を変更する規約の協議につ いて	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
同 意 第 1 号	雫石町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求め ることについて（仁佐瀬 進 委員）	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
同 意 第 2 号	雫石町固定資産評価審査委員会委員の選任に関し同意を求め ることについて（築場 弘貴 委員）	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意

○…賛成、●…反対 欠…欠席 ※前田隆雄議長は採決には加わりません。

12月定例会

一般質問 町政を問う 11議員が質問

一般質問は、議員が広く町政に関し報告や説明を求めたり、疑問をただしたりするものです。定例会ごとに実施されており、質問順は抽選で決定しています。

質問者	質問内容	掲載頁
 むら た あつ お 村田厚生議員	総合戦略のなか、 明日へのまちづくりは	7
 にし だ まさひろ 西田征洋議員	被災住民の要望に沿った 治水を	8
 いわもちきよ み 岩持清美議員	TPP 合意による 町内農業の影響は	9
 いしがめ みつぎ 石亀 貢 議員	(株)しずくいしの 経営指導は	10
 やまざき る み こ 山崎留美子議員	特別養護老人ホームの設置 こそ住民ニーズでは	11
 おおむらしょうとう 大村昭 東 議員	コンプライアンスへの 取り組みは	12
 よこ て としあき 横手寿明議員	スポーツ観光への 取り組みは	13
 どうぜんよしのぶ 堂前義信議員	盛岡広域連携中枢都市圏 構想への取り組みは	14
 すぎさわとしあき 杉澤敏明議員	鶯宿グラウンドの改善を	15
 うわ の み よ じ 上野三四二議員	小学校統合、 行政トップの考えは	16
 かわぐちかず お 川口一男議員	町内水路の通年通水と 認可はいつか	17

問 まちづくりの基本は、いつの社会でも人口減少対策を考えていかなければならないと思うが、町の人口減少対策本部会議の会議概要は。

企画財政課長 雫石町のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するため、平成 26 年度 3 月に立ちあげた。総合戦略は、基本目標 1 から 4 のプロジェクト、計画策定・進捗管理について意見を交わす会議を毎月 1 回開催し、10 月下旬に人口ビジョンと総合戦略を策定した。

問 人口減少問題のベースとして考えられる事は、「若い人の結婚、出産」への思いと考えるの違いから少子化時代となっている。皆で考え支援していかなければならない大きな課題である。町の平成 25 年度から 27 年度（4 月～10 月）の結婚・出生届け数は。

町民課長 年度ごとの出生届け数は、平成 25 年度が 93 件、26 年度は 105 件、27 年度が 10 月末現在で 54 件となっている。

参考：年度ごとの比較

	婚姻数（人） ※町内在住者	雫石町に 届出があった数(件)
平成 25 年度	92	67
平成 26 年度	95	64
平成 27 年度 (4 月～10 月)	46	28

	出生数（人） ※町内在住者	雫石町に 届出があった数(件)
平成 25 年度	91	93
平成 26 年度	102	105
平成 27 年度 (4 月～10 月)	55	54

問 教育環境について町の小学校 10 校を 5 校に再編統合計画の会議等、マスコミが取り上げているが、どのようになっているか。

学校教育課長 現在のところ、御所地区 3 小学校は、統合準備委員会を進めようとしている。西山、御明神地区については、まだ統合準備委員会を設置するに至っていない。総合教育会議の後に各小学校 PTA 会長と懇談会を開催し、1 月 12 日から 8 校の小学校に出向き説明を行う予定である。協議の時間を持ち、きちっとした手順で進めていく。

総合戦略のなか、 明日へのまちづくりは 町長／結婚を望む独身者への 支援を強化



若い人の
ガンバリを
応援する
ために
なりたい

問 商工業、観光業、双方の振興支援に繋がると思うが、平成 17 年 7 月から開催され、全国に知られている「元祖しずくいし軽トラック市」の 12 月開催を計画実施するべきと思うがどうか。

観光商工課長 平成 27 年度軽トラック市の来場者数は 57,200 人となっている。12 月開催については、商工会を主体とする実行委員会へ提案を伝え、より充実したイベントとなるよう検討していきたい。

■他にこんな質問もしました

- ・中心市街地整備にロードヒーティングを
- ・あねっこバスの町内運行計画の改善について

被災住民の要望に沿った治水を

町長／時間をかけても真剣に対応していきたい



「TPP交渉の
大筋合意」
詳しく知りたく
ありませんか？
本当は怖いで
すよ。

問 あの大雨被害で、竜川流域の小赤沢行政区では、地元の要望も取り入れて、安心して生活できるような工事を行って感謝されているとのことだが、橋場地域は堤防を築いて欲しいという声が大い。県に働きかけるべきでは。

町長 法律では、復旧工事の際、原形復旧が困難か、不適当な場合、これに代わる必要な施設を設置する事業も災害復旧とみなすとされており、小赤沢地域は、県がそれに基づいて改良費を加えて護岸工事や河床掘削工事を実施しているもの。橋場地区は今年度から用地測量を行い、これから県と地元の協議に町も協力していく。

地域整備課長 問題の新竜川橋下流部分は、当面は河道掘削工事と盛り土工事と聞いている。

問 地域の人たちは、このままでは集落が維持できるかという不安の声もある。今が最後のチャンスととらえ、地域崩壊を招かないた

めにも是非とも地元の声に寄り添って、不安のない治水対策になるよう県に要望してほしい。

町長 地元の不安の解消に努めるのは当然のことだ。

TPP 反対への態度は

問 以前に町長は、TPP 反対を表明し、機会があれば何らかの行動を示す旨の発言をしておられたが、今でも変りはないか。また、町への影響は前の試算と比べてどうか。

町長 TPP 影響の新たな試算は国でもまだやっておらず、TPP 反対の態度は今でも変わらない。

問 このことにつけても、足腰の強い雫石農業の確立が望まれている。町内産和牛の町内保留事業への助成をして、増頭ばかりでなく繁殖素牛の切り換え、さらに肥育牛への安定供給にも役立てるよう手立てを取るべきだ。

農林課長 様々な可能性を検討していくつもりだ。



完成が待たれる、小赤沢地区の河川災害復旧工事

TPP合意による 町内農業の影響は

町長／具体的な試算を
行なっていない



まちづくり会社、
事業計画、
資金計画を
自分でやらない。
他人任せで
いいのか。

問 TPP交渉の大筋が合意され、農林水産物の大幅な市場開放を受け入れることとなったが、本町農業に対する影響とその対策は。

町長 町内の影響額については、国及び県の影響試算の結果を踏まえて検討していく。また、町内産の農畜産物の安定生産による農家所得の確保、流通関係者や消費者との信頼を構築し、農畜産物の供給基地として農業振興対策を講じることがTPP対策にもつながると考えている。

減反は無くならない

問 米政策の改革として平成30年より国は、生産調整からの撤退と直接支払い交付金廃止の方針を打ち出した。その対策は。

町長 減反が廃止されるわけではなく、国指導から生産者団体指導で目標数量の配分となる転作作物として、小麦や大豆、飼料作物、野菜、花卉、飼料用米等に対応する。また、水田活用の直接支払い交付金は今後も継続されるものと思う。

意見 先の見えない農業、従事者の高齢化などにより、農業をリタイアしたいと思っている人は相当数いる。耕作放棄地を増さないで、雫石の景観を守る為にも、農地集積の受け皿になる組織を早急につくるべきだ。



高齢者に依存される日常の農作業

何か変、14ヘクタール開発

問 町有地14ヘクタール開発の事業計画と資金計画を作る業務を、どこに委託するか。

企画財政課長 基本設計等については、早稲田大学 都市・地域研究所 阿部俊彦客員主任

研究員の会社デザインワークスという事務所に、コミュニティーづくりについては、(株)コミュニティーネット等に委託する。

問 事業計画、資金計画を、なぜ(仮称)まちづくり会社に委託させないか。

企画財政課長 町長が社長になった場合、町から(仮称)まちづくり会社には委託できない。

問 NPO法第3条では、NPOは特定の個人、または法人、その他の団体の利益を目的として、その事業を行なってはならないとある。NPOしずくいしが(仮称)まちづくり会社に出資することは妥当か。

町長 「NPOしずくいし」に確認したところ、総合計画推進モデルプロジェクトの検討結果及び(仮称)まちづくり会社の定款に定められている事業目的に賛同したことから、9月4日召集の理事会において承認済みであり問題ないとのことである。

(株)しずくいしの経営指導は

町長／部門別収支、組織体制の強化を指示



(株)しずくいしの平成27年度は、収支が均衡し、継続的に自立した黒字経営を期待する。

問 平成26年8月5日付けで「第三セクター等の経営健全化の推進等について」総務大臣通知があり、地方公共団体は第三セクターについて、自らの判断と責任により徹底した効率化、経営健全化に取り組みを進め、財政規律の強化に努めることが必要と示されているが、経営上の問題をどう指導、指示したか。

町長 平成13年開業以来、平成21年から6期連続経常損失を計上、極めて憂慮すべき状況にある。開業当初の経営戦術、経営形態を踏襲、継続していたほか、経営目標の曖昧、マンネリ化があった。同社事業の適正化について、部門別収支、組織体制の強化に努める指示をした。行政として平成25年度経営改善会議、同社も経営改善プロジェクト会議を設置、検討している。

問 平成27年度の決算見通しは。

町長 当期損益を黒字転換への努力を指示している。

問 経営上の重要事項について、地方公共団体としての指導・監督方針や、基準を策定し、明確にすることが望ましいとあるが本町はどうか。

観光商工課長 特段、基準等の明記はないが、役職員の数等については、株主総会あるいは取締役会で決定し事業を進めている。

指定金融機関変更は

問 指定金融機関は一自治体に一つの金融機関に限られており、交代することに自治法は制限を加えていないがどうか。

町長 公金を取り扱う金融機関の経営状況把握に努めており、経営は良好と判断している。交代は検討する状況にないが、今後、経営状況等を見極めながら判断したい。



庁舎内にある指定金融機関

特別養護老人ホームの設置と 住民ニーズでは

町長／給付が伴うので
慎重に検討していく



地方分権一括法が
できてから
もう15年も経った？
管理から経営へという
ことで求められるのは
問題解決能力と
マネージメント
だよな。

問 (仮称) まちづくり会社の説明会資料に、特養は設置せず待機者をゼロにすると思ったが、町内の待機者が増加傾向にある今、介護を必要とする方や介護の重度化は疑う余地がない。設置しないという根拠は何か。

町長 特別養護老人ホームが必要でないと考えているものではない。ホームの新たな施設整備となると、介護保険料の上昇にも影響されるので今後も慎重に検討していく必要があると考えている。

問 町有地 14 ヘクタールの活用計画には町内でも疑問の声が多くある。有料老人ホーム建設計画は、仮に 70 名の方が入居した場合、一人あたり年間 188 万円の消費が見込まれるとのことだが、同様に町内 65 歳以上の方の消費はどうか。

企画財政課長 町内の消費額データは押さえていない。年間 188 万円というのは、内閣府の調査による額で、たとえば高齢者でも移住していただければ消費があり、それが地域経済を支えていくことを示すための一例である。

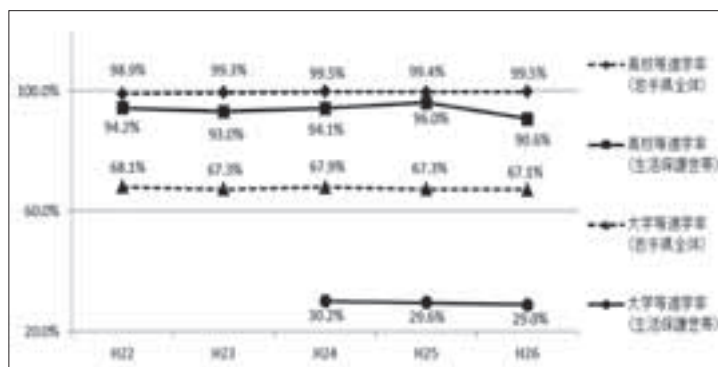
問 介護福祉士への養成機関となる実務研修施設の整備は急務であるが、例えば、雫石高校の再編として、介護福祉学科の新設も視野に入れた支援取り組みの考えは。

町長 県立という立場から厳しい状況だが、雫石高校自体は本町にとって重要な学校である。教育委員会も含め、新設の学科や福祉的なもので、希望者を全県あるいは全国から募ることができたらいいと県には申し上げている。

教育格差にかかわる行政の フォロー策は

問 子どもの貧困率は 15.7%、約 6 人に一人の割合で大変深刻な状態になっている。現実として教育格差が指摘されているが、町内の実態に照らし、フォローはどうか。

教育委員長 就学援助者数の推移は、26 年度は 158 名の 12.6%、今年度は 137 名の 11.4% 学用品から体育実技用具等援助しているが、今年度からは生徒会費まで拡大している。また、塾などに通うことが困難な中学生を対象に、盛岡広域振興局学習支援及び相談等プログラムとしての学習会を月 1~2 回行っており、10 名の中学生が参加している。



こんなに低い生活保護世帯の進学率
(岩手県ホームページより)

※コンプライアンスへの取り組みは

町長／公務員倫理研修を実施する



町の施設に、
なぜ特定の
指定管理者だけが
約1千万円もの
改修工事を行わねば
ならないのか、
おかしい。町長の
公平が信念に
反します。ダメです。

問 本町の行政事務事業に対する町民の疑問、不満、クレームの声が後を絶たない。例えば水田活用直接支払交付金の支払遅延、補助金返還請求訴訟事件、指定管理施設の不公平不明瞭な改修工事、否決予算に係る事務事業の続行、新生「雫石町」60周年記念事業行事に対するクレームなどや不公平と思われることについてであるが、コンプライアンスへの取り組みはどうなっているか。

町長 公務員倫理研修を実施する予定である。

問 町民から様々な声が寄せられている。「これは、どういうことだ」「この予算はおかしい」「これは不公平だ」「夏の高校野球大会は、なぜ雫石に来ないのだ」「八幡平市安代の田山でやった大学スキー選手権大会に、なぜ雫石は金を出すのか」「あの叙勲はおかしいのではないか」「これは土地の無断使用である」「あ

れはパワハラではないか」などの声である。こうしたことが起きるのは組織がおかしいからではないか。

総務課長 事実を把握し対応する。

問 沼返地内14ヘクタールの町有地モデルプロジェクト関連予算が否決されたにもかかわらず、その仕事を進めた理由、法的根拠は何か。

企画財政課長 事業を10月臨時会に再提案し、可決されたものである。

問 沼返地内14ヘクタールの町有地は、農林業の総合政策を進める目的で取得した土地である。その議決の無視に至る稟議をどのように行って、農業行政財産として利用することを断念したのか。

企画財政課長 町長の判断により進めてきた。

問 議決を無視したことは、地方自治制度の統治システムをないがしろにすることではないか。

町長 大村議員は個人的に違反だと言うが、何ら違反の行為であると私は認識していない。

問 ある指定管理施設だけ指定管理者が、改修工事費を負担して直接工事を行うのはなぜか。

福祉課長 基本協定書に基づくものである。

■他にこんな質問もしました

- ・林業の振興による雇用創出と地球温暖化対策について
- ・森林バイオマス産業の企業誘致、移転について
- ・森林再生事業研究会の立ち上げについて

※コンプライアンス：法令の遵守をはじめ、社内規程・マニュアル・企業倫理・社会貢献の遵守

スポーツ観光への取り組みは

町長／積極的に合宿誘致に
取り組んでいく



今年の
いわて雪まつりは
雪不足で
雪像は無いけど
がんばってほしい。

問 雫石は体育施設、温泉宿泊施設も充実しており他市町村にはない利便性が整っている。もっとスポーツイベントの開催、合宿の誘致などスポーツ観光に力を入れ取り組んでいくべきではないか。

町長 平成 26 年度合宿受け入れ調査では、スポーツ部、音楽部等含め、約 8,700 人の受け入れ実績となっている。長期にわたり減少傾向にあることから、新たな学校やスポーツクラブ等を発掘することや、支援制度を確立し、町として合宿の受け入れ拡大に力を入れていく。

問 雫石の国体競技になっているアーチェリーは今後、2020 年の東京オリンピックに向けて町として普及に取り組んでいくのか。

総務課長 国体までは強化合宿等、誘致はしていく。東京オリンピックについては施設等の関係上、アーチェリーに絞らない形で誘致に取り組んでいく。

問 ファミリーマラソンは新たな部門や、前夜祭を開催するなど、もっと大会を盛り上げ、観光客誘致につなげる考えはないか。

社会教育課長 いまのところ、新たな部門を設置する考えはないが、参加者の話を聞きながら、可能であれば今後検討していく。

問 災害時相互応援協定を結んだ千葉県富里市とスポーツを通じた子供達との交流はできないか。

町長 既に静岡県富士市とは長く子供達の交流を行っており、関係する人たちが非常に盛り上がっている。教育的にも良いことなので今後考えていく。



スポーツ観光の先駆けとして成功している
岩手山ろくファミリーマラソン

人口減少・定住促進対策は

問 町外の人が雫石に移り住もうとした際に、住居に対しての補助や支援は考えているか。

企画財政課長 定住促進住宅の家賃の値下げや、現在空き家調査を実施している。空き家の中からリフォームして活用できる住宅であれば、リフォーム補助も検討している。若い人も移住出来るよう、環境を整えていく。

盛岡広域連携中枢都市圏構想への取り組みは

町長／総合戦略等と調整を図り、魅力向上と活性化を目指す



連携構想は、近隣市町との連携や機能分担を進めて、あらゆる分野での交流連携により、地域の魅力向上と活性化を目指すんだな。

問 国は、連携協約を締結し、連携中枢都市圏ビジョンを作成した都市および市町村の取り組みに対し財政措置を行うこととした。

当町において盛岡市を初め、近隣市町村との連携の具体的な方向性および総合計画との関係はどのようなになっているか。

町長 国のまち・ひと・しごと創生総合戦略で、中枢都市圏域全体の経済成長等活力ある社会経済を維持することを目的としている。

本町と盛岡市との連携協約の締結について、28年1月には他市町と連携し、基本的な方針を定める協約の締結が予定されており、連携中枢都市圏ビジョンについては、28年3月に策定される。

総合計画との関係は、第2次雫石町総合計画の基本構想において、近隣市町との連携や機能

分担、交流の推進によって、地域の魅力向上と活性化を目指す。

盛岡・八幡平広域観光圏の取り組みは

問 平成22年6月から平成27年3月まで、当町を含む12市町が盛岡・八幡平広域観光圏として認定され、盛岡・八幡平広域観光推進協議会を中心として活動を展開してきた。

その実績と当町の観光交流活性化行動計画との関係はどのようなになっているか。

町長 広域観光圏整備計画については、レンタサイクル街めぐり事業、スタンプラリー事業等を実施した。

成果として、広域観光圏の知名度向上のほか、滞在型観光の促進が図られた。

活性化行動計画との関係は、広域連携によるプロモーションを展開する等、誘客促進に取り組んでおり、広域観光推進協議会として活動を継続している。

問 広域観光圏として今後の取り組みはあるか。

町長 北海道新幹線の開通を見据え、函館市と連携したPRイベント等誘客推進事業や、滞在・周遊型観光推進事業等の取り組みを進めている。

■他にこんな質問もしました

- ・滞在型観光の推進すべきでは
- ・葛根田溪谷や鳥越の滝の保全と観光活用を推進すべきでは

鷺宿グラウンドの改善を

町長／多目的化を検討、 駐車場とトイレは改善



鷺宿グラウンドを多目的利用できるようにする第一歩は、デッドスペースを使用できるようにすることである。

問 ソフトボール大会等を開催する時には、野球用マウンドがある部分が使用できず、試合用グラウンド面が少ししか取れないので、さまざまな競技に使えるような多目的グラウンドに改善してもらいたいがどうか。

教育委員長 方向性の一つとして、グラスファイバー製移動式マウンドについて調査中であるが、課題もあることから関係者と協議を重ね、グラウンドの多目的化に向け、検討を進めていく。

問 B、Cグラウンド用の駐車場の整備、また、トイレは老朽化していて、不衛生であるので、改善してはどうか。

教育委員長 現在は、敷地の半分ほどを整地し、利用してもらっているが、当面は残り部分を整地、敷き砂利により駐車場の増設を図っていく。

トイレは、下水道への接続を視野に入れ、浄化槽設置の方法をもって対応していく。

問 桜の木の枝が、グラウンドに内に張り出しているところがあり、試合に支障をきたしているの、枝打ちをしてはどうか。

教育委員長 さまざまな状況を勘案しながら利用者が安心して利用できる施設の管理に努めていく。

問 多目的利用のため、当面、AとBグラウンドの中央部に広大なデッドスペース（図参照）があるので、その部分を使用できるようにしてはどうか。

町長 多目的使用の考え方は全く同感である。

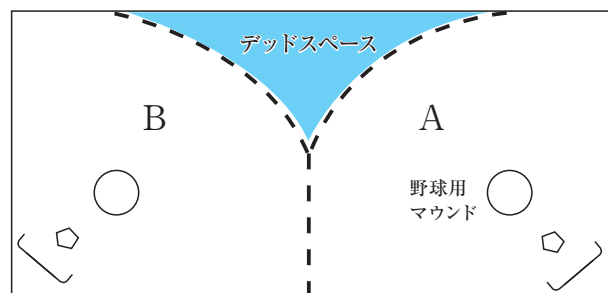
^{もとうし}肥育素牛導入に緊急支援策を実施

問 昨今の仔牛価格の動向を踏まえ、中・長期的観点から、弾力的に町内保留対策に取り組むべきではないか。

町長 今年度11月までの肥育素牛頭数は、平成25年度の同時期に比べ25%減少し、「雫石牛」の存続にかかわる深刻な状況に追い込まれることが予想される。肥育については増頭対策を見直し、肥育素牛の導入に切りかえ、平成

28年1月以降の導入に対し、価格の5%を補助する緊急支援対策を実施する。

図 鷺宿グラウンド



※広大なデッドスペースを使用できるようにすれば、さまざまな競技大会の開催ができるようになる。

小学校統合、行政トップの考えは

町長／教育環境保障のため必要



問 文部科学省の示した教育改革・新制度では町長の責任は重いものとなる。教育行政の姿勢と小学校統合を町長はどう考えているか。

また、教育委員会は統合計画を変更したというが、重大な変更の背景は何か。

町長 教育政策は、町を担う将来の人材育成という観点から極めて重要であると考えて、教育委員会と連携して教育環境の整備に取り組んできた。

人口減少により児童生徒は年々減少して小規模や複式学級となっている学校が多くなった。集団活動やグループ学習、習熟度別学習など集団の中から多様性を培い、切磋琢磨し、多くを学び成長できる教育環境を保障するため統合が必要であると考えている。

教育委員長 御所地区3校は、今年7月と9月に統合準備委員会の事前協議を行い、平成28年1月に第1回準備委員会開催の予定だが、西山地区3校と御明神地区2校は、それぞ

れPTA役員や地区の代表との話し合いを進め、早い時期に準備委員会が設置できるよう取り組む。現時点では、平成28年の統合は難しいことから計画期間を見直し、御所地区は平成29年4月、西山地区・御明神地区は平成30年4月を目指す方針とした。

問 統合時期を変更したと言うが、確定したものではなく、学区や地域だけに責任や負担を負わせていないか。町の教育の展望は全町の課題であり、中学校を含み協議すべきではないか。教育行政の責任者としては、このことをどう進めるのか。

教育長 3地区とも同じ時期に統合したいと進めてきたが、地域住民の合意が得られなかった。統合準備委員会に参加できる条件の整ったところから進めていきたい。

環境保全条例制定すべきでは

問 町は、環境の保全と創造のため平成20年環境基本条例を制定しているが、町民や事業者、観光来町者にもおよぶ不法投棄、廃車放置、ポイ捨て、自然破壊等例をあげるときのないほど公害防止・環境保全面で課題があるし、マナー低下も散見される。自然や生活環境を守り浄化気運を内外に示すためにも、町環境基本条例を上位とした環境保全条例を制定すべきと考えるがどうか。

町長 これまで先人が育んできた貴重な環境を後世に引き継ぎ、環境を守り育てる町の実現のため町民、事業者、町及び旅行者等の責務を明確にし、良好な生活環境を構築するため、条例制定に向け調査研究を進める。

環境対策課長 平成28年度に調査研究をし、平成29年度に素案提出で進める。

町内水路の通年通水と認可はいつか

町長／国から承認が県に届いていない

問 雫石土地改良区に発注してある水利権について3年にもなるが、どう進んでいるのか。町民への説明はしているか。

町長 町内水路の通年通水に係る、雫石土地改良区の水利権取得は、環境用水として国の補助が2分の1、事業者負担が2分の1の事業であり、町は事業者負担分の補助をしており、景観水利、防火用水など多面的な役割を担っている。早く認可がおりることを願っている。現時点では、国から承認する旨の意見書は、県に届いていないとのことである。

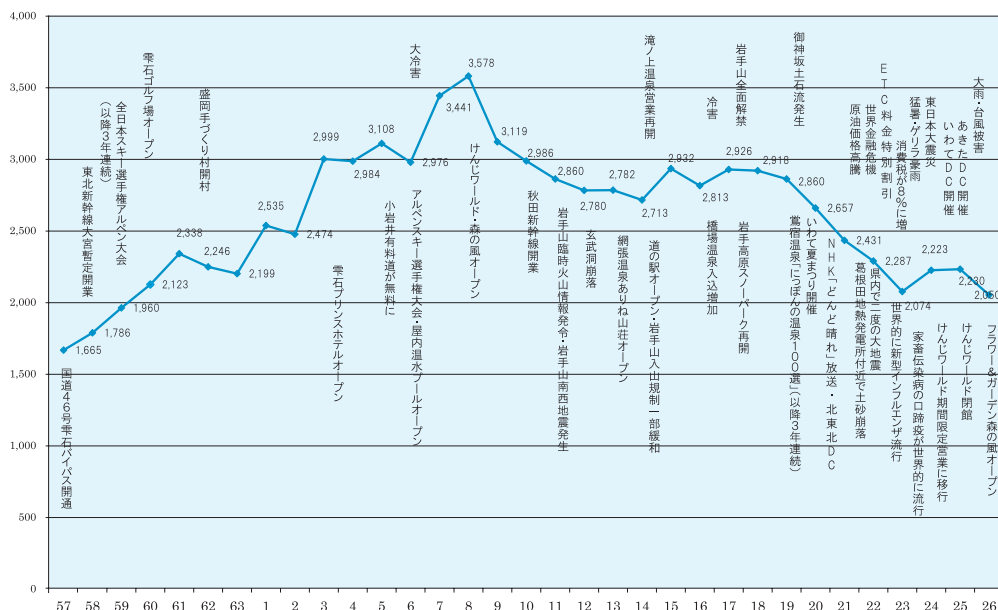
さらなる観光客の誘致促進を

問 町長は「観光と農業の町」と言っているが、何かやりましたか。先人の方々がやったその上にただ乗っかっているだけではないですか。「一般社団法人しずくいし観光協会に助成していれば良い」という考え方しか見えないが、これで良いか。

町長 観光振興策について、観光入り込み数は、平成8年357万人回をピークに減少が始まり、平成12年278万人回、平成26年205万人回となっている。町では減少傾向にある観光客入り込み数を増加に転じるため、首都圏観光商談会の開催や県内外への情報発信、訪日外国人観光客の受け入れ強化、観光協会の誘客活動支援を基本に、さらなる観光客の誘客促進に取り組んでいる。



押しても駄目なら
引いてみる、
引いても駄目なら
上げてみる、
それでも駄目なら？



雫石町観光レクリエーション客入込数の推移 (単位: 千人回)

町民と議会との懇談会を開催

延べ 53 人の参加者と懇談

雫石町議会では、町政に関する情報提供と、皆様のご意見やご要望を広くお聴きするため「町民と議会との懇談会」を 10 月 26 日、27 日、11 月 2 日の 3 日間 6 会場で開催しました。延べ 53 人の方々から議会や町に対する様々な質問、意見、要望等が出されました。

1. 開催日時・開催場所・参加者数

開催日	時間	開催場所	参加者数
平成 27 年 10 月 26 日(月)	19:00~21:00	(1) 林 公民館	15 名
	19:00~20:40	(2) 御所公民館	10 名
平成 27 年 10 月 27 日(火)	19:00~20:40	(3) 御明神公民館	3 名
	19:00~20:40	(4) 篠崎公民館	6 名
平成 27 年 11 月 2 日(月)	19:00~20:40	(5) 西山公民館	6 名
	19:00~21:05	(6) 駅前集会所	13 名
合 計			53 名

(参考：平成 26 年度参加者数 52 人)

2. 出席議員

開催場所	正副議長	議 員
林 公民館	前田議長	横手寿明、岩持清美、
篠崎公民館	加藤副議長	村田厚生、上野三四二
御所公民館	前田議長	山崎留美子、西田征洋、
西山公民館	加藤副議長	石 亀 貢、坂下栄一
御明神公民館	前田議長	堂前義信、杉澤敏明、
駅前集会所	加藤副議長	谷地善和、大村昭東

※山崎芳邦議員、川口一男議員は病気休暇のため欠席

3. 主な質問・意見・要望等（抜粋）

●農家は高齢化、後継者不足。今後の農業をどのようにする考えか。

【回答】雫石の農業のうち稲作は今後も中心となるもの。岩手県のオリジナル水稲品種「岩手 107 号」の正式名称が本年 11 月に「銀河のしずく」と決定になった。この新品種は、岩手のブランド米として、今後販売されていく予定で、雫石でも栽培されることになっていることから、「しずく」という名称も雫石のおコメのブランド化にも繋がるものと考えている。また、それを実現していくため、農地の集約化による作業の効率化や栽培技術の向上と低コスト化などを推進しながら、農業の担い手についても確保していきたい。

●下水道鶯宿幹線の整備状況は。

【回答】下水道の整備区域について、現在計画の見直しを行っている。鶯宿地区は浄化槽による個別処理ではなく、下水道による集合処理の方が有利という結果となっているが、整備をするにはまだまだ時間もお金もかかる状況。地域の要望や町の財政状況等も考慮しながら、今後も見直しを行い、最適な汚水処理方法により整備を進めていきたい。



多くの質問意見が出された、4 年目の懇談会

●安庭の花の湯付近の道路に歩道が無く、児童の通学時に危険を感じているので歩道を設置してほしい。

また、町場園地の交差点に信号をつけてほしい。

【回答】当該道路は一般県道盛岡鶯宿温泉線で県の管理となっていることから、担当の盛岡広域振興局土木部へ要望内容を伝えていく。

●東北電力の開閉場路が老朽化し、道路の下に碎石が入っていないため非常に傷んでいる整備してほしい。

【回答】道路の全面改修については、多額の費用を要するため早期の実現は難しい状況。破損がひどい箇所については、補修等で対応したい。

●雫石小学校前の坂のカーブ（通学路）は危険なので信号機を設置してほしいと 10 年程前役場に話したが断られ、その後も何も動きがない。役場に断われた後、どこにお願いすればよいのか。また、陳情・要望された事項の優先順位の基準は決まっているのか。

【回答】該当箇所については、平成 18 年に横断歩道の標識設置、23 年度と 27 年度に信号機の設置要望が雫石小学校から提出されている。27 年度の盛岡西警察署交通課と道路管理者である町の協議では、横断歩道及び歩道のライン処理等で今後対応していくことを確認しているが、交差点の現状では信号機の設置が困難であると回答を得ている。

その他小学校統廃合、町有地 14 ヘクタール関連、若者定住に関するご意見を多数いただきました。「町民と議会との懇談会」報告書と会議録・町からの回答は、雫石町役場ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

災害時相互応援協定を締結した 千葉県富里市を視察

行政視察
レポート

総務
常任委員会

11月16日から18日まで、閉会中の継続調査に関わる項目について、視察研修調査を行いました。

(杉澤敏明委員長他8名)

〔研修先及び研修事項〕

(1) 千葉県富里市

- ・旧岩崎家末廣別邸の保存活用について
- ・特産富里スイカの振興策について
- ・地方創生の取り組み状況について

(2) 東京都

- ・日本版 CCRC 移住促進センターおよび移住・交流情報ガーデンについて
- ・国重要文化財指定の旧岩崎邸住宅の管理について

(3) 栃木県那須町

- ・ゆいまーる那須の施設整備と運営状況について

■千葉県富里市

○旧岩崎家末廣別邸

富里市（人口49,908人、53.88km²）には、小岩井農場の経営主であった岩崎久彌氏が晩年を過ごした「旧岩崎家末廣別邸」があり、当町とは大正末期頃から、農牧事業の推進において、互いに緊密な関係が保たれてきた歴史があります。こうしたことから、平成27年6月29日に「災害時相互応援協定」が締結されました。

大正8年、久彌氏は三菱の社長を退き、小岩井農場とともに、末廣農場の経営に乗り出しました。そして、この農場の中心部に「末廣別邸（昭和初期頃建築）」を建築しました。

富里市では「建築的価値」・「庭園的価値」・「歴史的価値」があるとして、「富里の近代化と岩崎久彌の想いを伝える場所」として保存していくこととしています。



小岩井農場ゆかりの岩崎氏が晩年を過ごした旧岩崎邸

○特産富里スイカの振興策

スイカは重く、高齢化とともに年々作付面積が減少していることから、市の独自の取り組みとして「すいかの里生産支援奨励金」を交付し、銘柄維持に努めています。支援奨励金の実績は、毎年、250戸程の農家に対して1,600万円程となっています。

○地方創生の取り組み状況

「富里市人口ビジョン」と「富里市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しており、国の施策に沿った取り組みがなされていました。

富里市は、昭和53年の成田空港開港により人口が急増（倍増）してきましたが、最近になって減少に転じてきています。総合戦略の施策も成田空港の有効活用（空港隣接地域としての企業立地促進）の取り組みを継続して行うことで人口減少を食い止めることが目玉となっています。

■東京都

○日本版 CCRC 移住促進センターおよび移住・交流情報ガーデン

生涯活躍のまち推進協議会移住促進センターは平成27年10月9日に中央区八重洲にある田中八重洲ビル5階にオープンしたものです。ここでは、誰もが自分らしく、最期まで安心して暮らせる、持続可能な多世代共生の地域づくりに取り組んでいる先進的自治体を紹介しています（零石町も出展）。

移住・交流情報ガーデンは、地方創生推進のため、平成27年4月に中央区京橋にある越前屋ビル1階に総務省所管のワンストップ移住支援窓口としてオープンしたものです。

○国の重要文化財指定の旧岩崎邸庭園

明治29年に建築された洋式の邸宅で、現在は、5,125坪程の敷地と洋館、撞球室、和館が重要文化財として残されており、平成13年からは東京都の管理となっています。

■栃木県那須町

○ゆいまーる那須

地方創生の先進事例（日本版 CCRC）として紹介されている「ゆいまーる那須」を視察しました。ここに住み暮らすことになった人たちが、ある時は支える人となり、ある時には支えられる人となるような関係で生活しており、まさに一つのコミュニティが形成されていました。

自立した生活が難しくなった時は、その人にあったサポートが受けられる仕組みを整えているとのことでした。「あい・デイサービスセンター那須（定員10人）」が併設されています。また、入居者の疾病対応には協力医療機関が当たっています。



地方創生の先進事例「ゆいまーる那須」

図書館の設計と館長を全国公募 長野県小布施町を視察

行政視察
レポート

教育民生
常任委員会

11月17日から19日まで、閉会中の継続調査に関わる項目について、視察研修調査を行いました。

(山崎留美子委員長他6名)

〔研修先及び研修事項〕

(1) 障がい者の社会・文化活動について

(長野県長野市障がい福祉センター)

(2) 教育文化のまちづくりについて

(長野県小布施町「町としょテラソ」まちづくり研究所)

(3) 高齢化対策について

(長野県軽井沢町「みなみかるいざわ敬老園」)

■長野県障がい福祉センター「サンアップル」

スポーツや文化活動を通じ、障がい者の健康増進と社会参加を促進している。20名の宿泊機能を有し、サテライト施設が県内4施設です。

- ・年間運営費として約2億6,800万円。人件費は60%。指定管理者制度で行っているが築17年経過で修繕費がかかるようになってきています。
- ・リハビリテーションが隣地にあり、医師の指示書で入院者のリハビリも可能。また、ボランティアとしてのサポートの連携もできています。

■長野県小布施町町立図書館「まちとしょテラソ」

平成19年の「図書館のあり方検討会」から始まり「交流と創造を楽しむ文化の拠点」を運営理念としての建設がスタートしました。図書館の設計と館長は全国公募（設計は166名、館長には25名が応募）、町民公開のプロポーザル審査を行い常に開かれた運営をしています。

- ・開館日は年310日で長野県第一位、開館は午前9時から午後8時まで。ペットボトルに限り持ち込みは認めています。
- ・創作童話「花の童話大賞」の公募を通し、町民の表現活動を応援している。7歳から92歳まで全国から1,040編の応募がありました。



町内に書店がないため年末年始も開館し、多くの利用者で賑わう

- ・運営費は年間3,600万円、正規職員はゼロ、公募館長は最長5年まで、臨時職等7名だが、図書司書資格者が2名います。町民1人あたりの年間図書購買費は約300円（雫石町は一人当たり約119円）で、図書館利用者のうち、52%が町外利用者です。

■小布施町「まちづくり研究所」

かつまた

企画政策課・定住交流係主任の勝亦達夫氏（工学博士）から話を伺った。氏は東京理科大学大学院生時、小布施町にかつてあった水車に着眼し研究のため行き来をするようになり、現在は町民として定住しています。

- ・役場内にある研究所は現在11年目だが、多くの学生たちが常駐し水辺空間などの調査を行っています。定期的なワークショップのを町内で開催し、住民と行政と一緒にまちづくりを考える機会が定着しています。
- ・毎年開催のサマーセミナー・27年は、35歳以下の参加者に限定し「小布施若者会議3日間」を企画しました。法政大学と慶応大学の応援もありました。
- ・運営費は年600万円ですが、町と東京理科大学で300万円ずつ折半しました。



テーマに沿って東京理科大学と共同研究している

■軽井沢町「みなみかるいざわ敬老園」

社会福祉法人「敬老園」が平成25年に、軽井沢町で初めての地域密着型小規模特別養護老人ホームを開設しました。

- ・ホーム定員が29名、デイサービスが25名、敷地面積約10,567㎡、延床面積約1,692㎡、平屋建て、総事業費は約5億円（内補助金：1億3,340万円）で、町からの運営費補助はありません。地元雇用の面で課題があるとのことでした。
- ・軽井沢町の高齢者約5,500名のうち、介護認定されている方は720名で、入所は在住3年以上の方に絞っています。待機者は、360名ほどいます。
- ・デイサービスの利用者は一日平均18名で、指先を使う貼り絵などのメニューや、現在は「脳トレ」に力を入れて取り組んでいます。

宿泊費助成によりスポーツ合宿を誘致 石川県七尾市を視察

行政視察
レポート

産業建設
常任委員会

11月17日から19日まで、閉会中の継続調査に関わる項目について、視察研修調査を行いました。

(岩持清美委員長他7名)

〔研修先及び研修事項〕

(1) 金沢市の観光振興及び地方創生（地方定住策）の取り組みについて

(石川県金沢市内及び社会福祉法人佛子園「シェア金沢」)

(2) スポーツ合宿のメッカづくりについて

(石川県七尾市「和倉温泉運動公園」ほか)

(3) 中心市街地再整備事業について

(石川県白山市「千代尼通り商店街」)

(4) PFIによる公営住宅建替え事業について

(石川県小松市「小松市営川辺町住宅」)

■石川県金沢市「シェア金沢」(地方版 CCRC 施設)

金沢市では、観光地を繋ぐ定額周遊観光バスの運営や観光案内版の設置等観光客誘致に向けた各種観光サービスが随所で見られました。

「シェア金沢」は、社会福祉法人佛子園が運営する障害者・多世代など多様な人たちが自主的に暮らす「街」です。サービス付き高齢者住宅、学生向け住宅、児童入所施設、温泉、レストラン等があり、周辺の市民も多く利用しています。また、介護サービスも受けられ、高齢者も安心して暮らすことができます。売上げは、現在約4億円ですが、まもなく約5億円まで売上げが増加し、経営改善が見込める状況です。

■石川県七尾市「和倉温泉運動公園」

七尾市が、平成22年に和倉温泉多目的運動場を、平成25年には能登島グラウンドを整備し、本格的にスポーツ合宿等誘致活動を開始しました。

他に城山陸上競技場や七尾総合体育館などの施設があり、さらに平成27年、北陸最大級の24面全天候型テニスコートが開設されました。



グラウンド後方には日本海が広がっている

また、合宿等誘致事業補助金を七尾市内の宿泊を伴う合宿に対し交付するなど、ソフト・ハード両面から整備し、交流人口の拡大と地域活性化を進めています。合宿事業は平成19年度11件1,780人泊、平成26年度187件20,080人泊と大きく増加しています。

■石川県白山市「千代尼通り商店街」

昭和42年に全国でも先進的な200mのアーケード街を整備し、昭和51年には大型共同店舗が、昭和53年には530mアーケード街と街路灯が整備されました。それにより、店舗数が64店舗に増加し、商店街活性化事業のモデルケースとして全国から視察が訪れています。

その後、消費者の購買範囲の拡大、大型店舗の出店等により、商店街が低迷していたが、平成24年に無電柱化とバリアフリー化及び老朽化アーケード撤去等の整備を進め、「千代尼通り商店街協議会」を設立し、賑わい事業を展開して、商店街の活性化を図っています。現在の空き店舗は5店舗で、閉店の理由の大半は後継者不足です。



無電柱化とバリアフリーで高齢者にもやさしい商店街

■石川県小松市「小松市営川辺町住宅」

平成20年に、老朽化した市営住宅の建替えに当たり、民間のノウハウや国の補助制度を活用して、財政負担軽減と分譲住宅地整備を関連事業として実施し、新たな地域コミュニティづくりの推進を目的に、建替え事業が行われました。

民間のノウハウや資金等の経営資源を活用する「PFI手法」を用いて事業を進める事としたが、本事業ではPFI法に基づく本来の手法にとらわれず、「良質低廉な公共サービスを提供するための民間資本の活用しかた」に主眼を置き、事業の発案から終了まで民間と公共が協働できる連携範囲について模索し、進められました。事業期間は平成20年度から平成23年度までの3年間、鉄筋コンクリート5階建て2棟110戸を建設し、事業費は19億1,295万円です。また、残地は宅地分譲し、建設費に充当しました。



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



よこて ちえみ
横手 智江美さん
(48歳・上町三行政区)

未病、健康で あること

今年の雫石中学校のスポーツの活躍は素晴らしいものでした。

私も駅伝、バレーボールなどに応援に行き、子どもたちからたくさんの元気をもらいました。

近年、雫石もスポ少活動が盛んで、父兄の方々も応援や遠征・合宿などで、忙しくも楽しい毎日を過ごしていることと思います。

ただ、子どもたちに比べて私たち中年（年配の方々の方が元気）はほとんど弱っているように感じます。

毎日は無理かもしれませんが、定期的に運動をする習慣を身につけてはどうでしょうか。

汗をかくと元気になります！

病気になりにくい身体になれば、医療費の削減にも繋がります！

中年が元気になると、子どもたちはもっと元気になると思います。

国体が岩手県で開催される今年をきっかけに、議会を始め町や多くの方々から支援をいただきスポーツの普及やスポーツ関係のイベントが、さらに盛んに行なわれることを期待します。



ならやま かおり
桤山 佳織さん
(35歳・中町1行政区)

子どもが住みよい 町づくりを

個人的な話になりますが、私は現在妊娠7か月、小学生の息子が二人おります。

子育てをしながら思うのは、雫石という町が、子どもたちにとって住みよい町であって欲しいということです。

私が住む中町地区では、町の中心となるイベントや行事などが多数開催されています。なかでも、子どもたちが楽しみにしているのは、「軽トラ市」や「よしゃれ祭り」ではないでしょうか。

子どもたちや若者がイベントや行事に気軽に足を運び、賑わいを持たせてくれることが、雫石町の繁栄、発展につながるものと思います。

町の方々と触れ合う機会が増えることで、子どもたちも安心でき、住みよい町になると思います。

今後も、様々なイベントや行事の企画・運営をよろしくお願い致します。



こあかざわ ともひと
小赤澤 文人さん
(39歳・小赤沢行政区)

小学校統合で 感じること

私は、橋場小学校のPTA会長を務めさせていただいております。

現在町で検討されている小学校の統合について、住民の方の様々なご意見をうかがう中で、強く感じるがあります。

雫石町の小学校は、それぞれ地域に密着しており、地域の方々の多大なご協力のもとに運営されています。このことは、良い学校教育の体制であるばかりでなく、地域の活性化に繋がっているものです。

このため、教育環境をより良くするため検討されているものですが、学校を統合することは、町全体の構図に大きな変化を与えるとともに、現在小学生をお持ちの方や、統合にかかわらない地域の皆さんの環境にも大きな変化をもたらすと考えます。

子どもたちの将来のため、そして町の全体の起爆剤となるよう、みんなで検討していけたらいいと思います。

ふじしまやすとも
在京雫石町友会 会員 **藤島泰朋さん**



ラグビーと故郷に支えられた人生

私の実家は旧雫石下町の藤島洋服店(当時、ミシン屋)です。ルーツを探ると祖父の久治(盛岡の浅岸の出)と祖母のナオ(下町の後藤家(屋号とのさん)の出)は終戦まで東京で暮らしていましたが焼け出され、祖母の実家の雫石で生活を始めました。父泰造は下町の伊藤家(屋号いとまん)のとも子(母)と縁があり、私たち3兄妹(末妹早死)が生まれました。私の子どもの頃の思い出は小学校に上がる前の雫石の大火があります。この時のことは雫石大火記念誌にも投稿しました。

小学校の頃、夏、雫石川に泳ぎに行きカジカを獲って焼いて食べたり、行く途中で畑から頂いた(時効ですね)芋を焼いて食べたりしました。夏でも雫石川の水は冷たく少し長い時間泳いでいると唇が紫になるほど体は冷え、焚火をしたり、川原の石を集めてベッドを作り横になり暖をとりました。また、学校帰りに同級生の上野善道君(現在東京大学名誉教授)の家により毎日のように相撲をとったりしました。(一部屋の畳をダメにした)

中学校では、野球部に入り、頑張っって三年間続けることができました。これが自信となり高校進学すると、当時すでに全国レベルの盛工ラグビー部に入部しました。しかし多くの部員がいるなか、レギュラーは難しいと思っていましたが我慢強く頑張った結果、二年のときは全国大会、三年になると県代表で

国体に出場することができました。ラグビーのおかげで就職も出来たと思います。

昭和40年3月に盛岡工業を卒業し、東京八王子市にあった、当時まだ珍しいアメリカと日本の合弁会社である、横河ヒューレット・パカード(株)(後の日本ヒューレット・パカード(株))に就職しました。上京する日、夕方5時頃の汽車で雫石駅を出発し、盛岡駅から夜行列車で上野まで、そして八王子の会社玄関に朝8時頃に到着しました。雫石からは随分遠く離れた所に来たと思いましたが、ラグビー精神で新生活を頑張ろうと決意した朝でもありました。その後定年まで働き、関連会社勤務を経た後、八王子市の臨時職員として児童館勤務も経験しました。そして現在は妻、長男、次女と八王子市で暮らしています。(長女は嫁ぎ孫一人)

趣味のラグビーは関東社会人チーム、ラグビースクールのコーチをして、現在は岩手不惑ラグビークラブ(40歳以上。80歳以上の方も在籍)に入れて頂き、年数回は帰省して楽しんでいます。東京不惑クラブもありますが、やはり岩手、雫石の仲間と過ごせることが、最近最大の楽しみです。そして帰る度に雫石の四季を観て「こんなに素晴らしい自然の中で暮らしていたんだ」と今更ながら感じ、故郷に感謝しているこの頃です。



岩手不惑ラグビークラブ：東日本大会でのプレイ(ボールを持つのが筆者)



家族との写真(向かって右端が筆者)

昭和21年7月生まれ。雫石小学校、雫石中学校、盛岡工業高校、高校時代ラグビー部で新潟国体準優勝、東京オリンピック県内聖火リレー参加、昭和40年YHP(株)(後の日本HP(株))に入社。30代の大阪勤務を経て東京で定年。現在に至る。八王子市在住。

雫石町へようこそ



お嫁さん

お婿さん



左奥から幸江さん、夫の誠さん (36歳)
次男の雅季くん (2歳)、長男の智一くん (6歳)

ご縁があり、町外から迎えられた
「お嫁さん」

ひろせ ゆきえ
廣瀬 幸江さん (40歳 一関市室根町出身)
(旧姓: 大友、矢柵行政区在住)

Q- お二人の馴れ初めは?

- 共通の友人を通じて知り合いました。

Q- 雫石町に暮らしてみて、いかがですか?

- 自然に囲まれた良い町ですね。盛岡とは違い、車の通りをあまり気にせず、子どもたちは外でもいきり遊んでいます。スキー場も近いですし、冬は雪遊びができると楽しみにしています。

Q- 町へ望むことは?

- 小学校から、よく不審者情報の連絡メールが来ます。子どもたちが安全で安心して暮らせる町であってほしいです。

議会の主な動き 10月~1月

10月30日 臨時議会
11月2日 町民と議会との懇談会
(駅前集会所・西山公民館)
6日 産業建設常任委員会
13日 政務調査会
矢巾町60周年記念式典
16~18日 総務常任委員会先進地視察
(千葉県)
17~19日 教育民生常任委員会先進地視察
(長野県他) / 産業建設常任委員会先進地視察(石川県他)
21日 新生「雫石町」60周年記念式典・講演会・祝賀会
25日 議会運営委員会
25~26日 町村議会広報担当者研修会
(花巻市)
29日 歳末助け合いチャリティショー
30日 議員全員協議会 / 教育民生常任委員会 / 西和賀町議会との合同研修会 (雫石町)

12月4日 12月定例会開会(12/15まで)
議会広報編集委員会
10日 各常任委員会
11日 常任委員会 / 全体会 / 議会運営委員会 / 議員全員協議会
15日 政務調査会 / 議員全員協議会
22日 八幡平市議会広報委員との研修会 (八幡平市)
1月4日 町新年交賀会
10日 町交通指導隊初点検式・消防出初式 / 雫石町成人式
12日 議会広報編集委員会
15日 政務調査会
議員全員協議会 / 議会検証会 / 滝沢市議会との合同研修会 (雫石町)
19日 議会広報編集委員会
25日 盛岡市市政調査会研修会・懇談会
26日 農業委員会との意見交換会

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】

議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳 (10月~12月)】

月	葬祭費	お祝い、会費
10月	0件 0円	2件 16,000円
11月	0件 0円	8件 48,000円
12月	0件 0円	8件 35,000円
小計	0件 0円	18件 99,000円

今月の表紙

大村スポーツ少年団
代表: 上野 哲(さとる)さん



▲監督の
伊藤淳一さん
(大村行政区)

現在、団員は大村小9人、安庭小1人、上長山小1名の11名。マラソンやローラースキーも行っている。例年に比べ雪が少なく、クロカンの練習ができない日が続いた。ナイター練習は、毎週火・木曜日、大村小学校庭で行い、地元のOBや父兄の皆さんが指導している。寒風の中、地域の皆さんに見守られ元気な子どもたちの声が響きわたっていた。

入団の問い合わせは町体育協会まで。(☎692-5030)

■編集デスク

広報編集委員新体制より副委員長を仰せつかりました。議員となりまだ1年弱で未熟ではありますが、これまでの研修等で勉強してきたことを活かし、広報編集活動、議員活動に取り組んでいきたいと思っています。

(編集委員 横手寿明)